

アンチ・ドーピング × 製薬業の協働・国際会議
— Tokyo 2020に向けた、日本から世界への発信 —

第2回 製薬業及びアンチ・ドーピングに係る国際会議 ～クリーンなスポーツ、社会のための新たな展開～

文部科学省—WADA—UNESCO—JADA開催：2015年1月28日

本国際会議は、医薬品の不適正使用(乱用、目的外使用)等が見られるスポーツにおけるドーピングに対し、アスリート及びスポーツを護り、パブリックヘルスを向上させる、またそれらの責任を再認識し、より強い連携の方向性を確認することを目的として開催されました。

フランス政府が2012年にパリで開催した第1回会議に続き、本国際会議は、第2回会議として、2015年1月28日に、東京・明治記念館にて開催され、関係国際機関、各国政府関係者、製薬業、スポーツ組織そしてアンチ・ドーピング関係者、メディアを含め、国内外より300名以上の出席があり。また本会議は、“スポーツ・フォー・トゥモロー / Sport for Tomorrow*”の一環として開催されました。

当日は、丹羽秀樹文部科学副大臣・WADA常任理事、WADA会長クレイグ・リーディー卿、UNESCOアンジェラ・メロー氏による開会スピーチのほか、製薬業とアンチ・ドーピングとの連携・協働関係に関する世界の先進的な取り組みや具体的な事例の共有を通して、長期的な予防や先行した対策を講じるための様々な議論がなされました。

*スポーツ・フォー・トゥモロー / Sport for Tomorrow

スポーツの価値を社会に浸透させるアンチ・ドーピング活動を通して、2020年東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシー(遺産)を世界に残していくため、日本国政府のスポーツを通じた国際貢献策。

[国際会議ダイジェスト]

第1部：製薬業と世界アンチ・ドーピング機構 クリーンスポーツ、クリーンな社会に向けた結束

「ドーピングの社会的・経済的リスク」、「アンチ・ドーピングの課題と医薬品産業としての取り組み」、「医薬品産業とアンチ・ドーピング機関：成果と将来に向けた期待」の各テーマについて、国際関係機関の責任者らより講演。

アンチ・ドーピング活動の目的、製薬業における乱用等を防ぎ、適切な医療を提供する責任、政府における社会的・健康に関わる問題を解決するための役割には重なり合う部分があり、各専門的な立場でクリーンなアスリートの権利を護り、そして広く拡散しているドーピングの危険から社会を護っていく協働関係構築の重要性について講演。

第2部：クリーンなスポーツ、 社会のための協働関係推進の構想の実現

討論1では、協働関係を築くことの価値や重要性、そして各立場におけるサポートの在り方と責任を理解し、より敏感かつ先を見越した実用的な貢献の方策について、政府と製薬業の観点より討議。

討論2では、WADAと製薬業との効果的な情報共有や協働関係の実践例、今後のパートナーシップを通して、より積極的なアンチ・ドーピング戦略や‘Win-Win’となりえる活動方法について討議。組織内において社会的な使命が理解され、協働関係が推進されることの必要性を強調。

まとめ：更なるパートナーシップ構築への将来的な展望

アンチ・ドーピング関連団体と製薬業とがより強いパートナー関係を構築し、進展する社会の変化に積極的に協働して対応すると共に、クリーンなアスリート、スポーツのインテグリティ、そしてパブリックヘルスを護り向上させるため、各機関におけるレギュラトリーサイエンスの提案、そして新たなイニシアティブや研究を推進することが求められる。

本国際会議では、“スポーツ・フォー・トゥモロー”の柱であるアンチ・ドーピングを通して、スポーツの無限の可能性や社会における価値を次の世代につないでいくプロジェクトサイトの発表も行われました。

PLAY TRUE 2020 プロジェクトサイト <http://www.playtrue2020-sp4t.jp/>

なお、本国際会議の運営につきましては、主旨にご賛同いただきました国際製薬団体連合会をはじめ、日本製薬団体連合会及び日本製薬工業協会並びに関係企業の皆様に、御後援を賜りました。厚く御礼を申し上げますと共に、引き続きの御指導・御支援をお願い申し上げます。